中道改革連合神奈川 12 区総支部準備版
2026 年 3 月 29 日
前衆議院議員・小児科医 No.765

あべともこニュース

主権在民、武力行使や体制転覆を許さない

◆高市総理、訪米後に重い課題

三月十九日の高市総理の訪米は、緊迫するホルムズ海峡情勢の中、日本からの自衛隊派遣が先送りされたことや、またどんな要求が飛び出すかわからないトランプ大統領を相手に、とりあえず日米同盟の強化を確認できたことから、成功だと評価する報道が大半です。

しかしトランプ大統領による力の平和を賞賛するような高市総理の言動は、到底賛成できません。

イスラエルとアメリカによるイラン戦争は拡大の一途で、中東のあちこちで子どもを含む多数の犠牲者が出ている状況を思えば、米国の軍事力行使を支持すべきでないのは明らか。高市総理の発言によって平和国家としての信頼を失いかねません。

更に十一兆円に及ぶ追加投資が、小型の原子炉や弾道ミサイル防衛網の共同開発等に充てられる事で、今後大きな国民負担となることに対して、メディアはもっと関心を持ち、国民に正しく伝えるべきだと思います。

前衆議院議員あべともこ プロフィール
当選９回、東京大学医学部卒業、小児科医、あべともこクリニック（湘南台）理事長

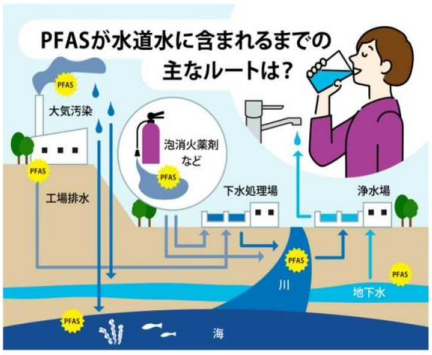
◆3月9日 PFAS国会内集会に参加

全国各地に広がるＰＦＡＳ汚染は、その発生源の特定が水系だけでなく土壌汚染の実態把握や、血中濃度の測定とともに胎児を含めた人体への影響調査の拡充など、さらなる課題が指摘されています。

この日、沖縄や大阪摂津、東京武蔵野、岡山吉備などの住民団体が集まって全国連絡会を結成、初めての省庁交渉が国会内で行われました。

特に飲料水の基準が、この四月からＰＦＡＳとＰＦＯＡ併せて１リットルあたり５０ナノグラムと法定され、各自治体での測定も義務付けられましたが、欧米に比してはるかに緩い規準であり、住民からは不安の声が上がっています。

食品安全委員会に対しては、規準決定過程で重要な情報が意図的に外されていたのではという疑念の声も上がっている中、胎児への影響を調べた「エコチル検査」で染色体異常が判明した事についても十分な回答はありませんでした。



基地や製造工場、産廃施設に留まらず汚染は確実に拡大しています。血液検査も含め、しっかりしたバイオモニタリング体制が不可欠です。

◆次の目標はキューバ入手？

この間トランプ大統領はベネズエラのマドゥロ大統領を拘束、米国に連れ去り、またイスラエルと共にイランへの予防攻撃をしかけるなど、ホルムズ海峡での緊張が高まっています。

そうした中、次にはキューバを入手すると公言。経済制裁をさらに強化し石油の供給を停止したことから、キューバでは全島停電となり、病院機能も維持できないなど、市民生活は著しい困難に追いやられました。

加えて周辺中南米諸国にも、キューバから派遣された医療団を引き上げさせるよう圧力をかけ、それらの国々の医療も深刻な影響を受けています。

１９５９年のキューバ革命以来、独自の社会主義体制を歩み、医療と教育を人々の権利としてきた国が、今アメリカの横暴の前に窮地に立たされています。

キューバには現在ヨーロッパから支援物資が送られているとのこと、日本からも支援ができたらと思います。

2023/1/25　藤沢でのキューバコンサートのスケッチ　by 江口友子

あべともこ事務所　〒251-0025　藤沢市鵠沼石上 1-13-13-1 F
TEL 0466-52-2680　FAX 0466-52-2681 E-mail：inochi@shonanfujisawa.com